



中藤っ子

LOVERS

令和6年度 No. 7
福井市中藤小学校だより
発行日 令和6年10月31日(木)
〒910-0837 福井市高柳3-3001
TEL:54-3823 FAX:54-3874

2学期、1年の折り返し

中秋から深秋へ...

朝晩の空気が肌寒くなり、ようやく秋の訪れや深まりを感じる頃となりました。5日間の秋季休業を経て、2学期がスタートしました。1学期の終業式や通知表わたしのふり返りを生かして、さらなる成長が感じられるような2学期にしてほしいと思っています。

2学期の始業式では、話のきき方について話をしました。

話を「きく」という漢字には「聞・訊・聴」がありますが、大切なのは「聴く」こと

だと伝えました。つまり、耳だけでなく目と心を働かせて聴く」ということです。

そして、聴き方のキーワードとして、「まなざし」と「うなずき」を教え、集中して聴くことで、記憶力や理解力がアップすることを話しました。

1年の折り返しを迎え、さらなる成長ができますように、ご家庭でもお子様への温かい励ましやお声かけをお願いします。

(文責：勝木)



ある日の出来事から

きれいさっぱりしました！

～ PTAクリーン大作戦 ～

10月6日、PTAクリーン大作戦が行われ、日頃の掃除ではできないところを中心に清掃活動を行いました。「時を守り 場を清め 礼を正す」として、週3回15分間ずつ児童と教職員とで清掃活動を行っていますが、なかなかやりきれるものではありません。今回は、大人の力を借りて、エコタワー内(屋上)の清掃やランプシェード・エアコンフィルターのほこり取り、トイレの尿石除去など徹底して行いました。

2時間の作業で、見違えるようにキレイになり、トイレも匂いがなくなりました。休日にもかかわらず作業に携わってくださった皆様、ありがとうございました。作戦大成功ということで...



さらなる進化を目指して

～ 中藤小研究企画部 全体研究会 ～

10月7日、放課後に全体研究会がありました。今回は、教職員が1学期を振り返って出てきた「授業に関する悩み」や「今後やってみたいこと」について、あらかじめ付箋で示された成功例をもとに、「児童の対話力向上」、「学力差の縮減」、「自主学習の方法」、「ICT機器の活用」、「学習の支援」など、それぞれグループに分かれて話し合いました。いろいろな人の考えに触れることができ、参加者は、自分なりの納得解や最適解を見つけ出すことができたようです。



クイズやゲームで交流しました

～ なかふじルーム 居住地交流会 ～

10月7日、中藤小校区に住んでいて嶺北特別支援学校へ通学している児童が、なかふじルームの児童と交流しました。お互いに自己紹介した後、なかふじルームの児童がつくった「画像クイズ」や「〇×クイズ」で楽しみました。最後に、風船バレーで汗を流しました。心のこもったおもてなしだったので喜んでもらえたようでした。

下旬には、福大附属特別支援学校の児童とも交流します。



青空よ、ずっとあなたをまっていた！

～ 秋季校内体育大会 ～

10月3日に行われるはずだった体育大会は延期を続き、9日、前日までの雨で校庭に残っていた水たまりを教職員の復旧作業で取り除き、ようやく体育大会開催にこぎつけました。開会式は、児童による開会宣言、児童の言葉、各色の決意表明、団長による選手宣誓と進んでいきました。大会スローガン「中藤オリンピック 楽しく笑顔で全力で秋の思い出No.1」のもと、児童の力強い思いが伝わってきました。競技は、学年種目、低学年・高学年色別リレー、色別パフォーマンスへと進んでいきました。給食時間との兼ね合いで、閉会式は、10日に持ち越しとなりました。分散ではなく、全校一斉に行われた体育大会、勝敗の結果を楽しみにしながら、児童は笑顔で帰っていきました。大会スローガンが実現できた体育大会になったのではないかと思います。翌10日の1学期の終業式の後、閉会式が行われました。



小中学校の連携を深めるために

～ 灯明寺中学校校区 小中合同研修会～

10月11日、秋季休業初日、灯明寺中学校校区の小中学校の教員が本校に集まって、合同研修を行いました。まず、講演会では、色彩生涯教育協会認定講師の江川良枝先生をお招きして、色彩から自分らしさについて考えるお話を伺いました。十人十色あるように、自分のいいところを知り受け入れて、自信をもつことの大切さを学びました。講演会後は、授業づくりや生徒指導、特別支援教育の3部会に分かれて、小中学校の情報交換をしました。コロナ明け、久々の部会でしたが、有意義な時間となりました。



学校は安全、だけど万が一に備えて

～ 不審者対応訓練 ～

10月23日、不審者が校内に入ってきたとの想定で、不審者対応避難訓練を行いました。地震や火事については毎年訓練を行いますが、不審者については久しぶりで、児童にとっては初めての経験でした。不審者対応マニュアルにもとづき、事前に担任から避難の仕方を学んでいたのも、放送が入ると、即座に避難行動をとりました。不審者役の教員との迫真のやりとりは見えない所でやっていたので、児童は、警戒が解除になるまでひたすら静かに待っていました。ただ、中には珍しいもの見たさで正しい避難行動ができていない児童も見られ、訓練の流れも含めて課題の残る訓練となりました。今後は、反省点を精査し、中藤小版不審者対応マニュアルを完成させたいと思います。また、今回の反省点を補うために、再訓練を行いたいと思います。



校長室から

～ ゲーム障害(依存症)について考える ～

世界保健機関(WHO)は2019年、ゲームのやり過ぎで日常生活が困難になる「ゲーム障害」を国際疾病として認定し、2022年から発効しました。

ゲーム障害の特徴は、①ゲームの時間や頻度を自分でコントロールできない、②日常の生活や活動よりもゲームを優先する、③日常生活や人間関係、健康状態に問題が起きてもゲームをやめられないことです。

ゲーム障害によって起こる**脳内の変化は、理性をつかさどる前頭前野と、本能・感情をつかさどる大脳辺縁系に見られます。**ゲームで長時間遊んでいると、前頭前野の働きが鈍くなり、大脳辺縁系が優位になります。つまり、理性よりも本能や感情が勝ってしまい、**ゲームに没頭することになるのです。**そして、**その弊害としては、①遅刻・欠席、成績低下、浪費(課金など)の学業・金銭面、②イライラ、うつ、引きこもりなどの精神面、③痩せ、肥満、運動不足などの身体面、④家族との不和、友達との減少等の人間関係面、⑤その他暴言・暴力が挙げられます。**

ゲームは、その使い方によって良い面・悪い面をもっています。ですから、**ネット・ゲームとの上手な付き合い方として、①正しい知識を子供と一緒に学ぶ、②子供と相談しながら「家庭ルール」をつくる、③子供との信頼関係を築き、どのようなゲームやSNSを使用しているかを知る、④ゲーム以外の一緒に楽しめる趣味をもつ、が挙げられます。**

幼ければ幼いほど、脳の発達へのダメージが大きくなるので、早期の対応を考えてみてはいかがでしょうか。